

今定例会で提出された発議・請願内容、討論

発議2号 議員定数条例の改正

【提案内容】
議員定数を現状18人から16人に削減する。

【主な審議の内容】

問 議員定数に対して、市民から意見を聞いたのか。

答 7月の議員選挙をきっかけに、定数や報酬について意見をいただくことがありました。

問 提案の前に、議会で事前に話し合うべきだと思うが、今回なぜこの時期に提案したのか。

答 本来なら9月定例会に提案したかったのですが、準備が間に合いませんでした。選挙を経て、議員に対する市民の声が熱いうちに提案を行いたいと思いました。

問 人口割で議員数を定める前に、市民に必要とされる議員としての資質を高めることが必要ではないか。また、定数削減することで、若者や女性など幅広い層から立候補しづらくなるのではないか。

答 資質向上は当然必要と考えます。定数削減すると民意が反映されにくくなるとの意見ですが、議員数が民意に比例しているのか疑問です。民意反映には、市民の方も積極的に参加すべきと考えます。淡路島一市を将来的に考える上でも、議員一人当たりに対する人口数3000人を根拠として、定数18人を16人に削減することを提案します。

【審議結果】
反対多数で否決。今後も検討していく。

請願3号 私有地放置ごみ撤去条例制定に関する請願

【請願内容】
私有地に放置されている大量のごみを、市が撤去できる条例の制定を求める。

【審議結果】
請願書記載の当該地に放置されているごみが一般廃棄物でなく産業廃棄物であることから県の管轄であり、市としてどのような対応ができるか、また、現地の確認も行う必要があることから、閉会中において継続調査を行う。

請願4号 「重度障害者医療費助成制度の国の制度化を求める意見書」採択を求める請願

【請願内容】
一、障害者医療費無料制度を、国の制度として創設すること。その際、精神障害者など全ての障害者を対象とし、通院・入院とも適用すること。

二、重度心身障害者医療費助成制度に対する、国のペナルティー制度を全廃すること。

三、当面、重度障害者医療費助成制度に対し、国の財政支援を行うこと。

以上3点についての意見書を国に提出することを求める。

【審議結果】
全会一致で採択とし、次回定例会において意見書を提出する。

討論

請願4号 「重度障害者医療費助成制度の国の制度化を求める意見書」採択を求める請願

賛成 西村 秀一

地域において自立した生活を営むことができるよう権利を保障し、その実現として、更なる支援制度の構築を目指していかなければならないと考える。障がいにより医療機関にかかる機会の多い、障がいのある全ての人たち、その家族の経済的負担を軽減するためにも、更なる国の財政支援を求める請願に対し、賛成する。

賛成 岡田 教夫

等級が軽くても、障がいがあるためにケガや病気にかかりやすく、治りにくいため、全ての障がい者を対象に医療費の無料制度を作るべきだ。住んでいる自治体によって制度が違うため、障がい者医療は、国の制度として実施されるべきものだ。国に対して自治体の独自施策への国庫負担を減額するペナルティー制度をやめるべきである。

討論

議案75号 (仮称)新岩屋ポートビル新築工事請負変更契約

反対 戸田 敦大

本件は、現在建設中の新岩屋ポートビルの地中障害物除去のために予算を追加するものだが、当該地は元々埋立地であり、地中から障害物が出てくることは容易に想像できる。しかし、ボーリング調査を1か所しか行わなかったことから3,500万円余の予算を追加するのは地質リスクマネジメントの観点からも不相当と考える。

討論

議案63号 特定教育・保育施設、特定地域型保育事業、家庭的保育事業等の運営基準条例の改正

賛成 戸田 敦大

本改正案は、保護者に対し、園の重要事項を従来の紙だけでなくEメール等のデジタルでも伝えることができるようにするためのものである。これにより、より明確に保護者に伝えることができる。また、保育士の日々の煩雑な事務的業務をデジタル化することにより、生産性の向上、労働環境の整備に寄与するものと考え賛成する。

討論

発議2号 議員定数条例の改正

賛成 長瀬 雅宏

本改正案は、今の議員数から2人削減を提案するものだ。市民の声が市政に届かないと言われるが、議員活動の幅を広げ、資質を上げることでカバーできる。これまで本市議会でも、議会改革が多方面で行われたが、今回は「身を切る議会改革」が必要だ。議会費は2人の議員削減で年間1,200万円の予算が節約でき、賛成する。

反対 西村 秀一

定数削減に、賛成・反対の市民、次の改選時に立候補しようと考えている方も含め、市民に対し、説明責任が伴う。最終的に議員自らが決めなければならない。ここまで議論し検証した結果、このような判断をしたと言える、「ここまでした」が大事と考える。議論も検証もされていない中で、提案の発議に対し、賛同することはできない。

賛成 田中 孝始

議論もなく、いきなりの提出には賛成できないが、ただ人口減を鑑み、定数削減は検討すべきこと。「この人ならば」とお声掛けしても、不安定さ、低報酬で、断られてきたのが実情。議員は「市民の役に立ちたい」という志、熱意が大前提。13年目となる減額報酬のままでもいいのか。むしろ、若い世代でも立候補できる環境を整え、市民と一緒に育てるべき。

反対 鎌塚 聡

2021年の市議選で5人、2017年も7人がはみ出すという状況で定数を割る立候補状況ではなかった。定数減は、市民の政治に参加する機会の減にもつながりうる。また、多様な民意を切り捨てることにもなる。議員の役割は、市民の多様な民意を市政に反映させ、市政をチェックすることだ。市民から信頼される活動をやっていこう。